

市政会 会派視察 (千歳市・根室市・小樽市) 平成30年5月14日(月)～16日(水)

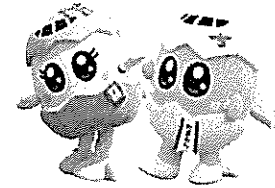
第1日目 北海道 千歳市

平成30年5月14日(月) 午前10:00 ～ 正午

千歳市の概要 2018年3月31日
人口:96,475人 面積:594.50km²

マスコット:たまらん・たまりん

「北海道の空の玄関口」である新千歳空港があり、国内線の東京(羽田)～札幌(新千歳)間は単一路線としては世界一の乗降客数を有している。国際線と合わせた乗降客数は年間約2,000万人に達している。



◎「合葬墓設置に対する取り組み」について

① 合葬墓設置について

千歳市は、交通の要所であり、新千歳空港、JR千歳線で千歳市から札幌市まで30分以内で行き来できるほど便利な街であり、今後、若い人たちが、千歳市に住居を構えることと思われます。今後、人口の増加も見込まれる千歳市であります。にもかかわらず、なぜ、^{がっそうぼ}「合葬墓・共同墓地」を設置することになったのか、その経緯については。

→

家族を一つの墓石のもとに一緒に埋葬する日本のお墓は、大正時代に火葬が普及したことで誕生しました。

このようなお墓は、^{さいし}祭祀財産(祖先を祭るために必要なもの)として、血縁者などに代々引き継がれて守られてきました。近年、お墓を継承できる方が少なくなり、無縁墓地が増加していると言われていす。実際に、「近親者が近くにいない」、「子どもがいない」、「子どもは娘だけなのでお墓を引き継ぐ者がいない」など、単身者や子どものいない夫婦、核家族化や少子高齢化が進む中で、従来のように家族単位でお墓を維持していくことができなくなっている方が増加している。一つのお墓にたくさんの方の遺骨を一緒に埋葬する新しい形のお墓「合葬墓」を紹介します。近年、家族単位で埋葬されてきたお墓に代わる新たな選択肢の一つとして、継承を前提としない宗教法人が設置する永代供養墓や多くの人々が共同で利用する合葬墓への関心が高まっています。その理由として、合葬墓は、従来のお墓に比べると初期費用が安く、継続的な管理費などが発生しない経済的な利点があります。これまで、合葬墓や永代供養墓は、「身寄りのない人びと(無縁仏)を埋葬するためのお墓」といったマイナスのイメージを抱かれがちでしたが、今日では個人が自主的に選ぶ埋葬方法の一つになっています。

【千歳市の場合】

公営の合葬墓は、平成5年に神奈川県横浜市が、平成10年に、東京都が設置しています。その後、合葬墓を設置する市町村が全国的に増えています。北海道内では、札幌市、小樽市、北見市、網走市がすでに設置している。千歳市にも合葬墓を設置してほしいという要望があったことから、平成16年度と24年度に市民の皆さんを対象にアンケート調査を実施。平成16年度の調査では、「合葬墓を知っている」が33%、「知らない」が65%と認知度も高くなく、「使用したい」が14%、「早く作るべき」が17%と使用希望や早期設置についても低い結果となりました。次に、平成24年度の調査では、「合葬墓を知っている」が39%、

「知らない」が43%と認知度も上昇し、「使用したい」が31%、「早く作るべき」が21%と使用希望が倍増し、「将来、市が造る必要がある」など、合葬墓の必要性を認める意見が87%となり、市民の設置要望が高い結果となりました。市は、平成25年度に合葬墓の設置を決定し、平成26年度に工事が完了、合葬墓の使用開始は、平成27年5月からとなりました。

② 千歳市は、この施策において、先進市の札幌市・小樽市・北見市・網走市などを参考にされたことと思います。道内の大都市の札幌市から、千歳市より約2万人程人口の多い北見市・小樽市、そして、人口約4万人の網走市のどんなことを参考にし、千歳市は、この施策に取り入れた理由は何か。

-
- I 納骨の方法 小樽市・北見市・網走市で採用している遺骨のみ埋葬し、合同で納める混合式の合葬墓とする
 - II 利用の制限 小樽市・北見市で採用している使用者・埋葬者が市民であること。
 - III 使用料 小樽市・北見市で使用料の算定に当たって、造成費及び50年間の維持費を算定根拠にしていることや、使用料を5千円としていること。

合葬墓は、末広第1霊園（稲穂2丁目15番）の駐車場内に設置しましたので、お参りがしやすい場所にあります。合葬墓には、骨壺（箱）単位で収納するものや遺骨を骨壺から出して他の方の遺骨と併せて埋葬する種類があります。市の合葬墓は、他の方の遺骨と併せて埋葬する種類のため、埋葬した後は取り出すことができません。なお、遺骨は、1,500人分埋葬できます。合葬墓を使用できるのは、千歳市民や千歳市にご縁のある方としましたので、合葬墓の碑銘を「千縁塚」としました。通常、宗教法人が管理するお墓などは、供養という宗教的行為が含まれますが、市の合葬墓は、そのような宗教的概念はありませんので、供養祭などの行事は行いません。また、宗教観の異なる多くの方々を埋葬しますので、埋葬するときやお参りのとき、合葬墓の前で読教や聖書の朗読など、宗教的な行為はできない。

③ 「骨壺（箱）単位で収納するもの」と「遺骨を骨壺から出して他の方の遺骨と併せて埋葬」となっております。「骨壺（箱）単位で収納するもの」については、骨壺（箱）の大きさは、葬儀屋さんによって骨壺（箱）は、千差万別ですが、市指定の骨壺（箱）に移し替えるのですか。合葬墓を使用できるのは、千歳市民や千歳市にご縁のある方と定められていますが、千歳市にご縁のある方の定義とは。埋葬する時には、市職員が立ち会うのか。埋葬できる日時は、決まっているのか。

→

【使用料】1体あたり5,000円。 使用料には、管理料も含まれています（申込時に納入）。※使用料以外に必要な費用は、ありません。

【埋葬できる期間】 5月1日から10月30日

【埋葬日】 週1回（金曜日の予定）※申込時に埋葬日時を調整。 埋葬は、親族・関係者の手により焼骨を骨壺から取り出して、焼骨投入口から行います（市や霊園管理人は、埋葬しません）。※合葬墓に宗教の概念はありませんので、「納骨のとき」や「お参りのとき」は、合葬墓の前で読教などの宗教的行為は行わないでください。

※一度、埋葬された焼骨を改葬することはできません。

※焼骨以外は、埋葬できません。

※市が焼骨を預かることは、ありません。

※碑に名前を刻むことは、できません（埋葬された方は、市の台帳で管理します）。

合葬墓は、50年間の利用を見込んでおり、焼骨を埋葬する方を優先します。生前予約をしなくても、資格のある方は使用できますので、生前予約の有無で有利、不利になることはありません。

※年間10件程度は、生前予約を受け付けします。

合葬墓は、末広第1霊園（稲穂2丁目15番）の駐車場内に設置しましたので、

お参りがしやすい場所にあります。合葬墓には、骨壺（箱）単位で収納するものや遺骨を骨壺から出して他の方の遺骨と併せて埋葬する種類があります。市の合葬墓は、他の方の遺骨と併せて埋葬する種類のため、埋葬した後は取り出すことができません。なお、遺骨は、1, 500人分埋葬できます。合葬墓を使

用できるのは、千歳市民や千歳市にご縁のある方としましたので、合葬墓の碑銘を「千縁塚」としました。

通常、宗教法人が管理するお墓などは、供養という宗教的行為が含まれますが、市の合葬墓は、そのような宗教的概念はありませんので、供養祭などの行事は行いません。また、宗教観の異なる多くの方々を埋葬しますので、埋葬するときやお参りのとき、合葬墓の前で読教や聖書の朗読など、宗教的な行為はできません。②市内に本籍を有している方③血縁者の焼骨を持つ使用者（申請者）で、市内に住所を有している方④埋葬者（故人）が市内に住所・本籍を有していたことがある方※市の墓地を使用している方で、墓地に納められている焼骨を合葬墓に改葬するときは、墓地を返還する必要があります。

※他市町村の墓地から改葬するときは、④に該当する方（複数の焼骨を改葬するとき、千歳市内に住所・本籍を有したことのない方が含まれているときは、認められません）。

千歳市の合葬墓の定義

合葬墓とは、定められた区画を使用する従来のお墓とは異なり、一つのお墓に血縁を超えた、多くの方々の遺骨を埋葬する新しい形のお墓です。合葬墓は、市が管理しますので、将来、誰がお墓の管理をするのかといった継承の心配がなく、また、お墓が放置される心配もありません。

④ 千歳市の合葬墓は、市が管理するので、将来、誰がお墓の管理をするのかといった継承の心配はない。また、お墓が放置される心配もない。と言われますが、埋葬された方々の負担は、埋葬した時に納める代金のみで、ランニングコストは、本当に必要ないのか。修繕費などは、受益者負担ということなのか。

→

使用料算定に当たっては、合葬墓の建設費と使用予定年数の50年の維持管理料を埋葬予定数の1500体で割り返した額を勘案し、1体あたりの使用料を定めていることから修繕費を含めた使用料であると考えている。

⑤ 市内に住所・本籍を有していたことがある方は、資格があると定められているが、在住期間、年数は、関係ないのですか。

→

市内に住所・本籍を有している方の在住期間、年数は制限はない。

⑥ この事業を始めて、千歳市民の反応は。問い合わせは、増えましたか。

→

当初、年間30体の想定していたが、想定を大幅に上回り、市内霊園を墓じまいしての申請や、他市のお寺や墓地などから移転を含めて3年間の平均で年間約100体の申請があり、今後、ますます合葬墓のニーズが高まると思う。

⑦ 今現在、千歳市の合葬墓において問題点は何か。今後、改善すべきこと、工夫を施すことは何か。
→

当初は50年間、申請を受けることが可能と想定していたが、現状、3年で300体という埋葬率であり、このままのペースで推進すると15年で満杯となる。新たな合葬墓の建設が早まると想定され、対応しなければならない。


埋葬の立ち合いにおいて、市職員で対応しているが、他の業務に支障が、多々あり、今後(平成32年以降)指定管理業務としたいと思っている。

視察の所感

合葬墓(がっそうぼ) 複数の遺骨を1つの墓所に収めるお墓のことで、納骨堂形式のものが一般的である。合葬式墓所、永代供養墓、合祀墓(ごうしぼ)などとも呼ばれるが、永代供養墓には「供養」という宗教的な言葉が使われているのに対して、合葬墓は納骨形態によって名付けられている。この形態は、今後の日本に合致したものであり、知立市もこの施策を取り入れるべきと思います。以前、私も当局に共同墓地設置を要望しましたが、けんもほろろに一蹴されました。市民のための施策に取り組んで頂きたい。

第2日目 北海道 根室市

平成30年5月15日(火) 午前10:00 ~ 正午

<p>根室市の概要 2018年3月31日 人口: 26,039人 面積: 506.25km² 北海道東端、根室半島全域を占める市。根室振興局の所在地。1957年根室町と和田村が合体して市制。1959年歯舞村を編入。地名はアイヌ語ニムオロ(樹木が繁茂するところの意)に由来。宝暦4(1754)年松前藩が航路を開き、運上屋(→運上)を設置したのが起源。以来漁港として繁栄。明治2(1869)年開拓使庁根室出張所、1897年根室支庁が置かれ、北海道東端の行政中心地、漁業基地として発展した。</p>	 <p>根室市 マスコット ねむろくん</p>
---	--

◎「根室市版 防災問題の取り組みについて」

根室市民は、知らず知らずのうちに自然と郷土愛が芽生え、地域や学校だけでなく、長年にわたって培った習慣、言い換えれば、それは、道德教育のたま物とも言えます。道德教育と防災との関わりを踏まえて防災問題の取り組みについて報告書に書き添えたいです。

道德教育が始まって60年の節目となる2018年度、道德が小学校で特別の教科になります。翌2019年度からは中学校でも教科化されます。各自治体の教育委員会は、各々市町に見合った題材を取り上げて、健全な少年少女の育成のために取り組んでいる。根室市の市教育委員会は、熱心に地元根室市の置かれた現状、今後の課題などを市内小中学生に対して自発的に考えさせるような取り組みをされておられます。

幅広く見れば、これも道德教育の一環と言えます。私は、事前に根室市さんの取り組みについて、いろいろ

と研究、学習しました。根室市は、まち全体が、自然に囲まれており、必然的に、市民のみなさん(老若

ろうにやく

なんによ

さいきょう

男女)の自然災害に対する意識は、極めて高いことは、よく理解できました。災害に強い“災強”の街づくり。その核は道徳だと思います。根室市は、根室愛と北方領土返還というスローガンのもと、一丸となっている。根室市民の絆が、強く感じられます。だから、有事の際に命をつなぐことになると思います。

① 災害に強いまちづくりの推進について

根室市は、災害に強いまちづくりの推進事業として、どのような取り組みをしているのか。

→

災害に強い地域づくりを目指して

自分達の地域は自分達で守る！

災害が発生した場合に被害の防止や軽減を図るためには、地域住民の連帯意識の下に自主的な防災活動が不可欠となります。災害発生時に各自がバラバラに行動するのでは大きな効果は期待できませんが、地域住民が一致団結し、組織的に行動することによりその効果が高められます。したがって、地域ぐるみで防災体制を確立していくことが重要となります。そのためには防災関係機関と地域が一体となって緊密な連携をとり、万が一の災害に備えていかなければなりません。災害につよいまちづくりを進めていくには『自分達の地域は自分達で守る』という考えを持ち、災害に備えることが大切となるため、地域で自主防災組織の結成に取り組みましょう。

日頃の活動

『いざ』というとき、みなさんの自主防災組織が十分に活躍できるように、皆さん一人ひとりが火の消し方、応急手当の心得など、防災についての正しい知識を持っていることが重要です。自主防災組織として、あらゆる機会をとらえて、住民の皆さんがお互いに防災意識を高めあえるような活動をしましょう。

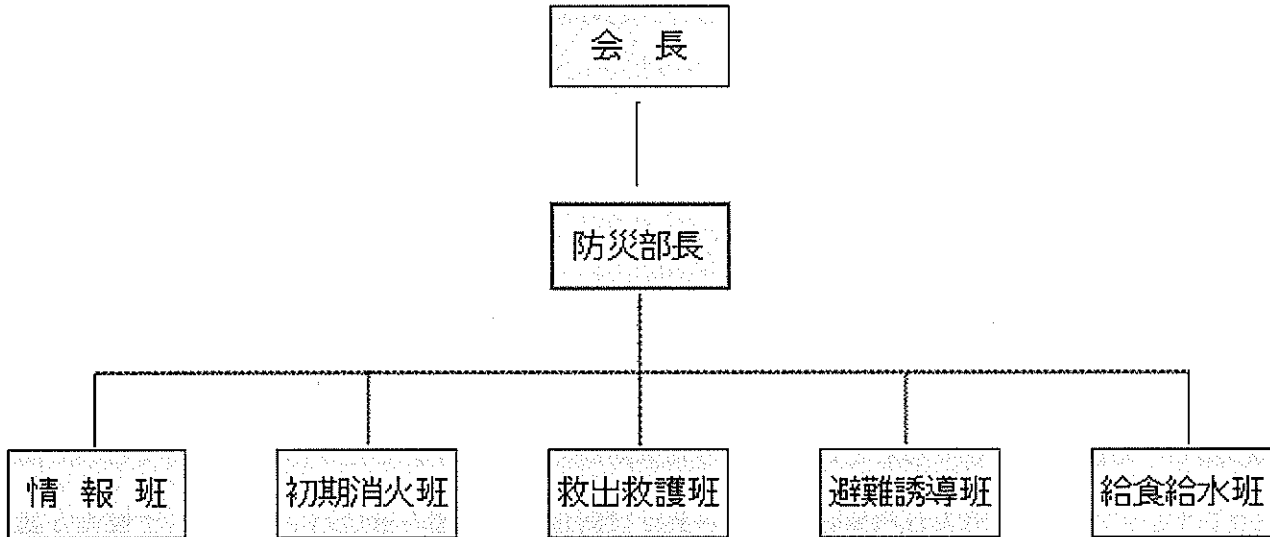
実際に被害が発生したときには、なかなか思うように身体が動かないものです。そのような時に落ち着いて安全に行動できるよう、実際に活動することに慣れておかなければなりません。自主防災組織として、みんなでまとまり、普段から協力して防災訓練を行い、『いざ』というときに備えましょう。

各組織の班編成と活動内容

自主防災組織が効果的に活動するためには、だれが、どのように活動するのかを決めておき、互いの関係を体系づけておくことが重要です。自主防災組織が結成されたら各班の担当者は災害時にどのような行動をとればよいのか確認しておく必要があります。また、平常時に訓練等を行うことで災害時の行動がより

円滑に行われるという利点もあります。なお、班編成や活動内容については下図のような例が一般的と思われませんが、地域の実情に合わせて班編成を行いましょう。

自主防災組織構成例



《自主防災組織の活動内容例》【日頃の活動】

日頃の活動

対策内容	活動内容	担当
情報対策	1. 地区住民の意識啓発のために広報誌の発行等を行う 2. 防災関係機関との連絡方法の確立	情報班
初期消火対策	1. 地区住民に火災予防の啓発を行う 2. 延焼危険地区、消防水利等を把握しておく	初期消火班
救出救護対策	1. 救出用資機材の保管場所の把握 2. 応急手当用資機材の使用方法や負傷者の応急手当の方法について消防関係機関の指導を受け習熟しておく 3. 負傷者の搬送(収容)先の確認等	初期消火班

日頃の活動

対策内容	活動内容	担当
避難対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の危険箇所や避難地区・避難誘導ルート of 把握 2. 災害弱者(高齢者、障害者等)のリストアップ 	避難誘導班
給食給水対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給食給水の方法や器具などの取り扱いの確認 	給食給水班
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災訓練の実施(各班又は合同で随時実施する) 2. 備蓄資機材の管理、点検 	各班

災害時の活動

対策内容	活動内容	担当
情報対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 負傷者や被害状況を取りまとめ市へ報告 2. 応急対策等の正確な情報を各世帯へ伝達する 	情報班
初期消火対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周辺住民の協力を求め初期消火活動を行う (ただし、火災が拡大しそうな場合は消火活動を中止し避難する) 	初期消火班
救出救護対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資機材を有効に活用し救出活動を行い、必要であれば消防機関に 出動要請をする 2. 負傷者の応急手当の実施や医療機関・救護所への搬送 	救出救護班
避難対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 避難状況を地域内の全ての住民に伝達するとともに、組織として 安全な行動がとれるよう避難場所まで誘導する 2. 地域住民の安否を確認し総務情報班へ伝達する 	避難誘導班
給食給水対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 炊き出し活動、飲料水の確保等をするとともに食料品や救援物資の 	給食給水班

災害時の活動

対策内容	活動内容	担当
	効率的な受け入れ及び配布を行う	

② 根室市では台風、爆弾低気圧による暴風雨、また地震や津波に対応するための地域防災計画を策定している。平成8年には北海道東方沖地震を契機に見直しされ、さらに平成23年の東日本大震災後に災害対策基本法が改定されたのを機に、根室市の地域防災計画の見直した。具体的に、何を見直したのか。

→

平成25年度に、「津波防災計画編」を新設。26年度に、地域防災計画の追加・避難行動要支援者名簿の追加・安否情報の提供の追加など順次、対策を講じている。

③ 災害時には、地元の自治防災会が、どんな役割を果たしているのか。根室市は昭和32年に根室町と和田村が合併して誕生し、同34年には歯舞村を編入して現在に至っている。消防団は昭和22年にそれまでの警防団から消防団に改称されたが、現在でも合併や編入前の地域的な色合いが強く残る。全国的に団員の確保が厳しい状況を迎えているが、現在でも市の人口が減少していく中でも、実働要員としてほぼ定数の334人を確保している。なぜ、このようにほぼ定数の334人を確保できるのか。その理由は。

→

郷土愛が強く、また、自営業の方々は、親から子へと引き継ぎしっかり着実に出来ているので、人員不足は、起こらない。

④ 今後の課題については。

→

人口減少が、著しく、担税力世代が、釧路市、札幌市、東京に働きに行ってしまうのが、現状であり、まち全体が地盤沈下してしまうことが、問題点として上がっています。実際、根室西高等学校が、統廃合になってしまう。

外国人の防災教育については、商工会議所が、水産加工技術を学ぶためベトナムから来根しているベトナム人研修生の日本語講習の一環として防災講座をこのほど、市総合文化会館で開いた。地震の少ないベトナムから国内有数の地震多発地帯の根室に来ている研修生たちに災害から身を守る術を身に付けてもらうのが狙いで、講座には根室で水産加工技術を学ぶベトナム人研修生 11 人が参加。真剣な面持ちで講座に耳を傾けた。防災講座は、気象警報の発表や避難勧告の発令など防災に関する知識の欠如は、災害時の避難行動に大きな影響を来す

ことから、外国人研修生に避難行動や想定される災害など防災教育を行い、地域全体の防災力の強化を図ることを目的に行われている。講師は、根室市の防災担当で、日本で起こりうる災害や気象警報、注意報、これまでの災害や根室で想定される地震や津波などの災害について説明。この後、緊急地震速報が発表された場合の身の守り方などをゲーム形式で学んだほか、緊急地震速報などを利用した避難行動訓練や災害図上訓練を実施。市が作成したハザードマップで、自身が住んでいる住宅に最も近い避難場所や実生活で行き来する地域の避難路、避難場所などを確認した。また、日ごろから防災教育に取り組む根室高校の生徒会も協力し、特別講座として高校生による暴風雪災害や地震、津波災害時の対応について学び、実習生と高校生が日本語で発表し合うなど交流を深めた。相互理解のもと、防災対応に努めていく。

視察の所感

緊急に避難するときは混乱防止のため、決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切。特に、乳幼児や高齢者、病人、身体の不自由な人を安全に避難させるために日頃から十分な対策を立てたり、近所の人にも協力してもらうことが必要。市民の力が、防災対策には、欠かせない。絆なくして復興なしと痛感しました。

第3日目 北海道 小樽市

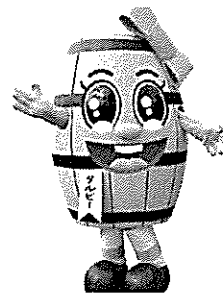
平成30年5月15日(火) 午前9:30 ~ 正午

小樽市の概要 人口：117,944 面積：243.83km²

2018年3月31日 後志総合振興局管内で唯一の市。古くから北海道有数の港湾都市として発展してきた。市内に100店舗以上を構える寿司の街として知られることなどから観光都市としても人気が高く、毎年700万人以上の観光客が訪れている。

市町村の魅力度ランキング調査ではトップ10。

小樽市：タルピーちゃん



◎ 視察内容:小樽観光大学校おたる案内人認定制度について

① 小樽観光大学校とは、どんな学校なのか。

→

おたる案内人認定制度とは、小樽市は観光都市として全国的にも高い知名度を有しており、観光産業は小樽の基幹的産業の一つとして成長し、本市経済に大きな効果をもたらしています。今後とも多くの観光客の皆様にお越しいただき、小樽の持つ“真の魅力”に触れていただくため、小樽観光の本質を捉えた人材育成を目指す認定制度です。

② 小樽観光大学校が、目標としていることは何か。

→

小樽市は、観光都市であることは、行政も市民も十分理解している。多くの市町では、観光ボランティアガイドは、シニア世代が中心である。だからこそ、小樽市では、シニア世代にかかわらず、現役世代、中学生、高校生など次世代にも観光小樽に関わってほしい。という意図から幅広い人たちとともに観光の街小樽の繁栄をはかるための学校との位置付けである。

③ 小樽観光大学校の事業内容は。

→

(1) 事業

- ①小樽の文化・歴史などの知識を深めるための講座の実施
- ②検定試験の実施
- ③上記①・②に関連する事業（資格認定・プレート・バッジの発行等）

(2) 組織

顧問
小樽商工会議所
会頭 山本 秀明

顧問
国立大学法人小樽商科大学
学長 和田 健夫

④ この施策の今後の課題について

→

事業の運営費、事業を継続するための運営費、ボランティアさんの交通費など必要経費を如何に捻出するかが、課題である。また、ボランティアさんのスキル Up、そして、外国人対応、次世代の育成も大きな課題です。

視察の所感

小樽市を知立市と比較して見ても規模が違い過ぎて参考にもなりません。ただ、ボランティアの認定制度は、2級、1級、マイスターなどの制度は、自分のまちを知る上には、とても良い施策と思います。

最後に、根室市、小樽市は、知立市と人口があまりにも違うので、参考にはちょっとと言わざるを得ません。千歳市は、人口も知立市より少し多いが、ほぼ同じで、今回の「合葬墓」は日本中が、問題となっていることで、大変、参考になった。